

# 議案説明書

一般社団法人 日本 WPA

## 一般社団法人 日本 WPA 第 11 期（令和 2 年度）事業活動報告（第 1 号議案）

### 1. 事業の概要

新型コロナウイルス感染症で事業活動が大きく制約され、いまだに収束が見通せない状況が続いているが、2050 年のカーボンニュートラル宣言、改正地球温暖化対策推進法の成立など、環境保全の機運が高まっており、水なし印刷が果たすべき役割がより大きくなった。

令和元年に改定された環境省の「グリーン購入法」の基本方針に沿って全国の多くの自治体が、独自のグリーン購入で「水なし印刷」が採用された。

2021 年 4 月時点で 30 の自治体で水なし印刷が採用されている。

#### (1) 収支実績

収入は、雑収入を組み入れて 15,707,290 円で、予算比 818,290 円の増加となり、支出総額は、14,368,680 円、予算比 4,117,384 円減となった。その結果、当期正味財産は、4,935,674 円の増加となり、来期に繰り越す正味財産期末残高は 16,876,528 円となった。

#### (2) 会員数の増減

期中では、正会員 3 社の新規加入があった。会員数は、122 社である。

水なし UV 印刷の採用増かが寄与している。完全 VOC フリー印刷の 3W インキによる印刷もシール・ラベル分野で本格採用されている。

### 2. 個別事業活動報告

(1) 本年度はコロナ禍により、定期総会を書面決議に変更し、定例理事会（1 回/2 ヶ月）も全てオンライン形式で実施した。

(2) 継続して出展してきたエコプロ 2020 は、開催が中止となった。

(3) 脱炭素チャレンジカップ 2021 は、オンライン形式で開催され、日本 WPA は協賛団体として、「日本 WPA 最優秀未来へのはばたき賞」を、大阪府のせいわエコクラブに贈呈、顕彰した。環境マークへの関心も強く、バタフライロゴへの興味が大きかった。

#### (4) 会員サービス

9 月 9 日に、抗菌印刷に関する Web セミナーを開催した。

11 月 12 日に、サーキュラーエコノミーに関する Web セミナーを開催した。

リアルのセミナーでは参加に制約のある会員様も、オンライン形式の結果、多くの参加者があった。

(5) 継続事業として、カーボンオフセット事業、VOC 計測事業、CFP 事業を継続して実施し、カーボンオフセット事業では、2009 年に開始以来、累計の CO<sub>2</sub> の総オフセット量が、2020 年 11 月で 7,000 トン達した。LCA に基づいた CO<sub>2</sub> 排出量算定により、印刷物でのカーボンニュートラル（実質 CO<sub>2</sub> 排出量ゼロ印刷）を実現している。

以上

## 一般社団法人 日本 WPA 第 12 期（令和 3 年度）事業活動方針・予算案（第 2 号議案）

世界の脱炭素社会化の潮流、日本での改正地球温暖化対策推進法の成立など、気候変動対策や環境保全活動が地球規模での課題になっており、廃液を出さない、VOCの排出を削減できる水なし印刷は、SDGs の個別課題へ貢献するとともに、長年取り組んできた**オフセット**は脱炭素社会実現に大きく寄与するものである。

日本 WPA は、地球の未来に貢献できる非常に意義のある活動を継続しており、シンボルのバタフライロゴとともに更なる飛躍を目指す。

### 1. 基本活動方針

会員数が増加に転じ、カーボンオフセット事業への参加会員も増加している。新型コロナウイルス感染症の終息は不確かではあるが、活動のオンライン化の取り組みなどにより活動の効率化も実現している。会員サービスについて、オンラインとリアルでの活動のハイブリッド化を進め、質・量の両面で内容の充実を目指す。

### 2. 個別事業活動方針

#### (1) 「エコプロ 2021（12月開催予定）」への出展

SDGs への貢献、脱炭素社会の実現に向けての日本 WPA の活動を訴求する。また、一般来場者や、未来の水なしファンになってくれるであろう子どもたちにも分かりやすい展示を行い、同時に人気のかるた取り大会も継続する。

#### (2) 「脱炭素チャレンジカップ 2022（2月開催予定）」への協賛

1000 以上団体から応募から最終的に 28 団体のファイナリストを選び、その中から環境大臣賞などの各賞が選ばれる。日本 WPA は、審査委員の一員として各賞の選定や、「日本 WPA 最優秀未来へのはばたき賞」を、該当団体に贈呈する。

#### (3) 会員サービスの充実

会員相互の経営、技術の向上や交流を目指した工場見学会やセミナーの開催を、オンラインとリアルでの両面から、できる限り会員サービスにつながる活動を充実する。

#### (4) カーボンオフセット事業、VOC 計測事業、CFP 事業

日本 WPA が先進的に実施しているカーボンオフセット事業、VOC 計測事業、CFP 事業を、継続事業として実施する。特にカーボンオフセット事業は、CO<sub>2</sub>の排出量を、LCA に基づき厳密に算定することが求められており、日本 WPA のカーボンオフセット事業は、サプライチェーン全体での脱炭素活動を目指す世界的な動向に適した活動である。現在、SuMPO（旧産業環境協会）が計画中のカーボンニュートラルイニシアティブ（仮称）に参画し、脱炭素社会実現に貢献する。

#### (5) 「脱炭素経営 EXPO（9月未開催）」への出展

日本 WPA としては LCA に基づくカーボンオフセットによる脱炭素印刷の実績を訴求するとともに、より多くの印刷発注者（企業、行政）に水なし印刷、カーボンオフセッ

トの採用を訴求する。

(6) 水なし印刷採用の拡大（水なし UV 印刷、3W 印刷の拡大）

水なし UV 印刷の採用拡大と、完全 VOC フリー印刷の 3W 印刷の拡大を目指す。  
3W 印刷については、現在はシール・ラベルでの採用に止まっているが、採用分野の拡大を図る。

(7) 日本 WPA 会員数の増加

日本 W P A 入会の動機は、SDGs への貢献、働き方改革、環境対応など様々であるが、これらに関する情報発信を強化し、積極的に発信していく。

3. 予算

第 12 期は、11 期予算並みの会費収入として、14,800,000 円を計上する。

支出の内、経常支出の総額は、収入と近い額の 14,793,370 円とする。

経常外支出として脱炭素経営 EXPO 出展費として、350 万円、JP 展出展費、20 万円を計上する。

第 12 期の事業活動による総支出額は、18,493,370 円を計上する。

正味財産期末残高は、13,183,158 円となる。

以上